

タイニーキャンプ

令和7年10月4日(土)～10月5日(日)

【対象】 幼児(5歳児) 小学校1～2年生

【場所】 国立信州高遠青少年自然の家

1. 趣旨

幼児や小学校低学年の子どもたちが、親元を離れて共同生活や自然体験活動を行うことを通して、野外活動を身近に感じてもらうとともに、感性・自主性・協調性を育む機会とする。また、法人ボランティアが事業の企画運営をすることで、資質・技能を高める。

2. 事業の概要

(1)期 日 令和7年10月4日(土)～10月5日(日)

(2)参加者 22名(申し込み33名で、抽選)

(3)日 程

10月4日(土)		10月5日(日)	
10:30	受付	6:30	起床
11:00	開会式	7:00	朝のつどい
11:15	①仲間づくりゲーム	7:20	朝食
12:00	昼食	8:00	荷物整理・清掃、散策
13:00	②ネイチャーウォークラリー	9:45	④ランチづくり(昼食)
17:00	夕べのつどい	13:45	閉会式
17:20	夕食	14:00	解散
18:30	入浴・就寝準備		
19:30	③読み聞かせ		
21:00	就寝		

3. 企画運営のポイント

- ・幼児(5歳児)や小学校1～2年生の発達段階を踏まえた活動プログラムをボランティア自身が考えることで、ねらいに沿った活動を企画・運営する力を養い、ボランティアとしての資質や技能の向上を図った。
- ・事前に保護者向けのニュースレター(メール)を定期的を送付し、持ち物や施設周辺の気温、心構えなどを知らせることで、保護者の不安払拭に努めた。
- ・オンライン会議を活用し、ボランティアとの企画打合せや班付ボランティアへの説明会を実施した。移動時間を要さず効率的に情報共有ができ、限られた時間を有効に活用できるように努めた。
- ・ボランティアの運営についてできる限り「見守る姿勢」を大切にした。ボランティアが自分たちで考え、行動できるように、口を出したくなる場面でもできるだけ見守り、必要なとき(安全に係る点)にのみ声をかけるよう努めた。
- ・ふりかえりの時間を十分に確保し、自己評価や多面評価にて、多角的に事業を検証・分析することで、次年度に向けた改善施策を明確化するようにした。また、ボランティアの持続的な成長につながるように、一人ひとりの意欲を尊重し、挑戦と学びを循環させる仕組みを整えた。
- ・実施細案にあらかじめ心構えや支援のポイントを詳細に記入して、ボランティアが動きやすい資料を用意した。

4. 満足度（保護者アンケートより）

(1)保護者アンケート結果 回収 20 名（22 名参加のうち、2 組兄弟姉妹。回収率 100%）

事業全体を通して	満 足：20 名	100 %
	やや満足：0 名	0 %
	やや不満：0 名	0 %
	不 満：0 名	0 %

(2) 子どもたちの変容や感想（保護者アンケートの自由記述）

- ・開口一番「楽しかった！お友達ができた！」ととても嬉しそうでした。初めての一人での外泊をやり終えて、自信がついたのか、一人でお風呂に入る、一人で着替えるなど自分でやる気持ちが強くなりました。
- ・インドアな娘が、もの凄く楽しかったと喜んでいて、また参加したいと言っています。また機会がありましたらよろしくお願いします。
- ・あいにくの雨模様でしたが、屋内でもさまざまな活動を企画していただき、キャンプの話になると夢中になって話しています。楽しかったことは、きゅうりを切って野菜たくさんのサンドイッチを作ったこと、いろんな具材で自分の特製パフェ盛り盛りにしすぎてお腹いっぱいだったけど頑張って残さず食べたこと、嬉しそうでした。
- ・荷物の準備、片付け、どのようなものが分かってくるようになってきました。
- ・家族なしでの宿泊が初めてだったので本人も親も心配はありましたが、とても楽しく過ごせたようでまた宿泊キャンプがあれば参加したいと言っていました。親としてもまた参加させてあげたいと思っています。
- ・もらった名札と写真のパネルを大切にしていました。新しい友だちができたこと、泣いてる子がいて世話を焼いたこと、お兄さん・お姉さん・スタッフの方との会話をたくさんお話ししてくれました。
- ・ボランティアのお兄さんお姉さんや、職員の方が、とっても面白くてまた行きたいと喜んでいました。前に比べて積極的に行事や、興味の持ったものに参加したいと言うようになった事です。参加させて頂きありがとうございました。

5. 企画委員 事後ミーティングより（一部抜粋）

- ・2 日間という短い期間ではあったが、子どもたちが主体的に活動する様子が見られ、成長を実感できた。
- ・事業のコンセプトやテーマ（世界観）の共有において、班付ボランティアとの連携が十分にうまくいかなかった。
- ・短い期間で企画し、当日も運営の立場を初めて経験し、とても貴重な時間となった。
- ・子どもたちが終始笑顔で活動し、各プログラムをとても楽しんでいた。
- ・立ち位置や説明時の抑揚、話し方、声の大きさなどを意識しながら運営することの難しさを感じる一方で、こうした点を工夫する重要性も実感した。
- ・失敗する経験を通じて学び、それを次の機会に生かせるのは、自然の家ならではの貴重な体験であり、このような機会をいただけたことに心から感謝している。
- ・失敗を恐れず、挑戦することの大切さを学べた。
- ・演出も大事だが、活動に対しての安全面を考える必要がある。
- ・対象者を理解する上で、発達段階の特徴を踏まえることの重要性を実感した。今後のボランティア活動に生かせるよう、引き続き学びを深めていきたい。
- ・今回、運営の立場を経験したことで、今後班付きリーダーとして参加する際には、運営の補助や先を読んだ行動を意識しながら取り組めそうです。
- ・教員を目指す身として、今回の経験を自分の成長につなげ、子どもたちの発達や思いを理解できる教師を目指していきたいです。

6. 事業中の様子

【アイスブレイク】



【ネイチャーウォークラリー①】



【ネイチャーウォークラリー②】



【ベタベタ紅葉づくり】



【ベタベタ紅葉づくり】



【プラネタリウム】



【絵本読み聞かせ】



【サンドウィッチ&パフェづくり】



【サンドウィッチ&パフェづくり】



7. ボランティア自主企画（準備と運営）の様子

【事前企画ミーティング＆説明会】



【打ち合わせ・読み合わせ】



【企画委員と班付ボランティア】



8. 成果と課題

- ・ボランティアの「企画力」や「分析力」などの能力は、一定程度発揮できたと思われる。特に、事前準備やプログラムの運営計画において、自ら考え、計画を具体化する力を発揮した。一方で、「指導力」や「カウンセリング力」など、実際に子どもと関わる中で求められる対人スキルについては、経験値がまだ十分ではなく、場面によっては適切な対応に課題を感じることもあった。今後は、より多くの実践の機会を提供し、ボランティア一人ひとりが個性を発揮しながら指導経験を積むことができるような事業展開を図っていきたい。
 - ・当日の運営においては、安全面（リスクマネジメント）について、不十分な点も見受けられた。

ボランティアからの自己評価にも見られたが、活動の「世界観」を重視するあまり、打合せが細分化しすぎてしまい、その結果、準備時間なのか休憩時間なのか判然としない「空白の時間」が生じた。全体として進行にメリハリを欠く要因となり、安全確保の観点からは、「世界観」といった付加価値よりも運営面を優先すべき場面であったと考えられる。また、当日になって思いついたことを十分に検討、共有せずに実施した点も課題である。

今後は、たとえば全体運営（生活全般など）は職員が担い、企画部分のみをボランティアに任せるなど、役割分担を明確化し、双方で共有を図り、安全性を第一に事業を運営していく必要がある。
 - ・幼児や低学年向けの活動として、不測の事態に備え、ゆとりのある時間設定で計画を立てていた。しかし、十分な時間を確保していたにもかかわらず、スタートや説明が遅れたため、実際の活動時間はわずか 20 分しか取れず、企画の意図や効果を十分に発揮できなかった。非常に悔いの残る結果となった。
- また、活動の中では、ボランティアが判断に迷う場面や決断を迫られる場面も見られた。そうした際に、職員がどのように介入し、助言を行い、適切に見守るかは、今後の課題である。